

令和5年度
東京都写真美術館作品資料収蔵委員会
作品資料評価部会

令和5年11月7日（火）
東京都写真美術館 4階会議室

午後4時00分開会

渡辺文化施設担当課長代理：それでは、皆様おそろいになりましたので、始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、令和5年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会作品資料評価部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当で課長代理をしております、渡辺と申します。本部会の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

作品資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、東京都写真美術館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する部会、また評価部会は、東京都写真美術館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく部会でございます。

本日、評価部会の前に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件につきましては当館へ収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい、適切な価格評価をよろしくお願いいたします。

それでは、本日御出席いただいた委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

松本委員でございます。

増田委員でございます。

近藤委員でございます。

木村委員でございます。

浦野委員でございます。

なお、小川委員、鈴木委員、千葉委員は本日御欠席と御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

写真美術館副館長、小野でございます。

写真美術館事業企画課長、關次でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず会議次第がございます。そして、資料1、委員名簿、資料2「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」がございます。

次に、評価の関係資料としまして、「令和5年度収蔵作品資料別収集予定点数一覧表」が表についたつづりがありまして、その下に「令和5年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会購入作品」の「東京都購入案件」個表、「東京都写真美術館購入案件」個表、そして「令和5年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会 寄贈作品」、「令和5年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会 寄託作品」の4つのつづりがございます。

そのほか、評価書が東京都購入案件のもの、東京都写真美術館購入案件のもの、寄贈案件のもの、寄託案件のもの4種類ございます。

よろしいでしょうか。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報がございましたので、会議終了後に回収させていただきます。

次に、議事に入ります前に、当部会の公開について確認させていただきます。本日の議事は評価対象資料の価格評価に関するものですので、「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」第10に基づき、非公開といたします。

なお、当部会の議事録については、作品資料収集決定後、委員の皆様の個別の価格評価を除き公開を予定しております。公開に当たって委員の皆様には追って内容の確認をさせていただきます。また、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページ上に公開しております。

それでは、議事に入りたいと思います。

写真美術館事業企画課長の關次より、本日皆様に評価いただく資料の説明をいたします。よろしくお願いいたします。

關次事業企画課長：それでは、御説明申し上げます。今日はよろしくお願いいたします。

本日の予定ですが、まずこの会議室にて手順の御説明、そして評価額の決定方法などを御説明させていただきます。その後、3階収蔵庫、2階収蔵庫、そこでそれぞれ作品の実物、現物を皆様に御確認いただきます。それを御確認いただいた後に、再度会議室にお戻りいただいた後、映像作品の該当収集作品について、こちらのモニターで説明をしながら御覧いただく段取りになっております。

作業室ではスリッパにお履き替えいただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日お諮りします資料を、簡単に御説明いたします。

本日、東京都で購入する作品は19作家の116点を予定しております。

まず、主なものと、「日本の新進作家」に御出品いただきます5作家、うつゆみこ、淵上裕太、星玄人、山上新平、夢無子といった5作家。

そして、写真美術館で国内の主要な写真賞をほぼ受賞されております、活躍の著しいミドルキャリアの写真家の藤岡亜弥。

そして、第三期重点収集作家のホンマタカシ、米田知子。

そして、昨年度開催しました恵比寿映像祭にも御出品いただきました、杉浦邦恵の写真作品、映像作品。

そして、先週の日曜日に終了しました、今年度の映像展である「風景論以後」に御出品いただきました、笹岡啓子の作品。

そして、令和6年度の自主企画展「アレック・ソス」展に出品する予定の、アレック・ソスの作品。

そして、ロバート・アダムス、チェン・ウェイ、スコット・ハイドといった海外の3作家も来年度の展覧会で御紹介する作家、作品として収集する予定でございます。

そして、映像作品・映像資料についても、以下の作家を収蔵したいと考えております。

今年度の収蔵展「何が見える？」展に御出品いただきました、石川亮の作品。

そして、今年度の恵比寿映像祭に出品予定の作家の、ジョアンナ・ピオトロフスカ。これは写真作品と映像作品両方ございます。そして、同じく今年度の自主企画展「イメージと記憶」展に出品いただきます、マルヤ・ピリラの写真作品などなど。都費で購入する作品は19作家の116

点を予定しております。

そして、写真美術館は、写真美術館独自の自主財源を活用した収蔵を行っております。今年度は4作家の40点の購入を予定しております。今年度は全て写真作家の作品になっております。こちらは、潮田登久子、百々俊二、奈良美智、山中信夫といった4人の日本人アーティストの作家、40点を購入する予定でございます。

潮田登久子につきましては、写真美術館の総合開館記念展「写真都市 TOKYO」に出品いただきましたシリーズの、冷蔵庫のシリーズから16点。百々俊二につきましては、「新世界 むかしも今も」より20点。奈良美智は、今年のTOPコレクション展「セレンディピティ」に御出品いただきました作品のシリーズを、もう一点追加で購入する予定でございます。

そして、山中信夫。現代写真史上で非常に有名で、かつ貴重な作品です。この「マンハッタンの太陽」よりのシリーズから3点購入する予定で、合計で40点の購入となります。これは写真美術館の自主財源で購入した後、東京都への寄贈となります。

そして、寄贈作品に移ります。今年度は29作家の226点を収蔵する予定でございます。いずれの作家も東京都写真美術館で既に収蔵してある作家、また重点収集作家や展覧会に出品していただいた作家の方々などなど。そして特に顕著なのは、一部の写真のコレクターとして長年展覧会などで活用してきた作家、作品を御寄贈いただく例など、市民の方からの御寄贈が多数ございます。

そして、昨年度の恵比寿映像祭の第1回コミッションプロジェクトに参加していただいた作家の作品、4作品についても、今年度御寄贈ということで今回の寄贈案件に付議してございます。

そして最後に、寄託案件ですね。寄託案件につきましては、今回は中山岩太作品の21点を御寄託いただく予定で付議しております。中山岩太の作品は、既に写真美術館でも展覧会で何度か御紹介しております。平成20年に「甦る中山岩太」展を開催した際に、新たにプリント、制作した作品でございます。今後の展覧会での活用や、中山岩太調査に資する貴重な作品ということで寄託を提案させていただきたいと存じます。

以上、簡単ではございますが、今年度に収蔵を予定している作品の点数、概要でございます。

これより、この後詳しい作品の御説明は実物の資料を皆さんに御覧いただきながら担当より御説明させていただきます。

簡単ですが、以上です。

渡辺文化施設担当課長代理：ありがとうございます。

この時点で御質問、御意見はございますでしょうか。

ございませんでしたら、これから作品の実見をお願いしたいと思います。係の者が御案内いたしますのでよろしく願いいたします。

關次事業企画課長：すみません、申し訳ありません。1点御説明が不足しておりました。

今回お諮りする作品の評価額の決定方法につきましては、本日御出席の委員の皆様には作品の評価額を評価票に御記入いただきます。委員の皆様におかれましては、一番右の端にあります空欄にその作品の評価額を御記入いただき、御提出いただきます。

そして、本日御出席の委員の皆様からいただいた評価書に御記入いただいた金額の最高金額、そして最低金額はカットし、その残った金額を割り切って、それを平均とした金額を評価額と決

めさせていただくという段取りでございます。これが評価額の決定の方法になっております。御説明が不足しておりますして申し訳ございません。

また御質問等ありましたら、後ほど実見が終わってからも随時お受けしますので、御質問いただければと存じます。失礼しました。

渡辺文化施設担当課長代理：ありがとうございました。

それでは、早速実見のほうにお願いしたいと思います。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

渡辺文化施設担当課長代理：ありがとうございます。

作品を御覧になって何か御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

ほかに御質問等がないようでしたら、これから評価をしていただきます。評価書はそれぞれ分かれていますけれども、ペンで評価額を書いていただき、最後にそれぞれ記名をお願いいたします。

それでは、評価をお願いいたします。

御記入がお済みになった方は係の者が確認いたしますので、お声がけください。確認が終わりましたら御退席いただいて結構です。

本日はありがとうございました。

(評価書記入)

午後5時13分閉会

以上